
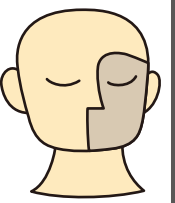






ドメスティック・バイオレンス(DV)

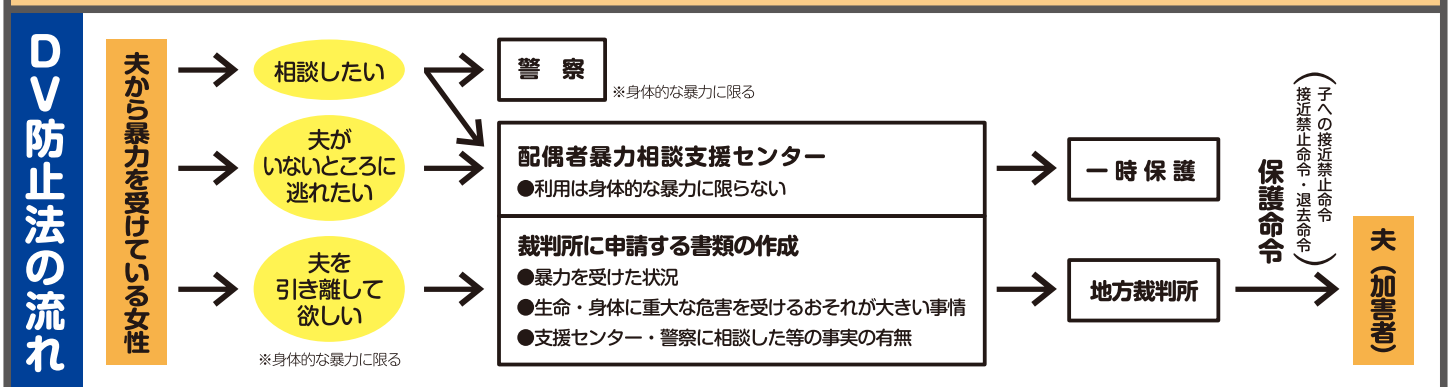
DVを理解しましょう

～被害者が悪いのではありません～

<p>暴力をふるわれる女性に原因があるのでは？</p>	<p>暴力をふるう人は、特別な人では？</p>
<p>どんな理由があっても、暴力をふるう側に責任があります。暴力をふるう人は「お前が言うとおりにしないからだ」などと被害者の責任にしますが、暴力はふるった側の責任です。被害者が「私が悪い」と思いこむ必要はありません。</p> 	<p>いいえ、加害者の多くは社会的な信頼があり、ごく「普通」の人がほとんどです。特別なタイプというのではありません。暴力をふるう人は、学歴・年齢・職業は特定されることが分かっています。家庭で暴力を選択している男性が、外では穏和で愛想がよいことも珍しくありません。</p> 
<p>子どものために、我慢した方がよいのでは？</p>	<p>どうして逃げないの？</p>
<p>父親の暴力を目撃する、物音や声を聞く、止めようとして殴られるなど、子どもたちはいろいろな形で暴力に巻き込まれています。DVがある環境の中で子どもは、不安になったり恐れを抱いたり、その安全が脅かされています。多くの子どもたちの心身の発達や成長に悪影響を及ぼすDVは子どもに対する人権侵害であり、我慢する必要はありません。</p> 	<p>逃げないのではなく、逃げられないのです。暴力を受けることで、心身が傷つき、逃げる気力も体力も失われている場合、相手のコントロールにより、逃げることも自分で考えられない状態になっている場合もあります。「別れたら殺す」、「逃げたら親、きょうだいを殺す」と脅かされている場合も多く、別れることは大変な困難と危険を伴います。</p> 
<p>どうして、女性に暴力をふるうの？</p>	<p>結婚している人だけに起こるもの？</p>
<p>加害者の多くは、家事・育児・介護は女性の仕事、妻は夫に従うものと思いこんでいるので、妻が夫の思うようにならないときに、暴力で妻を支配してよい、暴力をふるっても許されると思いこんでいます。自分のしていることが、悪いことだと思っていない。</p> 	<p>ドメスティック・バイオレンスは、婚姻関係の中だけで起るものではありません。中学生・高校生・大学生・社会人のカップル・内縁関係でも頻繁におこっています。「自分の彼女」は所有物という意識で自分の思いどおりにしても良いという考えから起ります。</p> 

DV防止法

～夫の暴力から離れたい、保護してほしい～



(注) 保護命令でなく、加害者を逮捕してもらいたいのであれば、傷害や器物損壊などで「告訴」できます。